第２回南風原町地域福祉計画策定委員会　会議結果

日時：令和５年７月３１日（月）
１０時～１２時
場所：３階　庁議室

１．議事
（議事進行：委員長）

議事：町民意識調査結果の報告
（事務局より資料説明）

委　員：南風原町は、津嘉山の新興住宅地開発等でアパートも多く建てられ、町外からの移住者も増えている。町の医療費無料化、保育園の待機児童解消などに力を入れてほしい。アンケートについては、運転ができなくなり、買い物等が困難になった高齢者の移動支援が必要だと思う。定年退職後の働く場所、シルバー人材センターを活用するなど、働きながら健康が維持できることが一番である。高齢者の働く場所、健康づくりの施策を考えていただきたい。健康づくりの一環として、近隣の市町村では気軽にできるパークゴルフ場があり、町でもぜひ検討していただきたい。町民体育館建設の話もあるが、維持管理費を含めた費用対効果を考えるとどうなのかと思うところもある。

委　員：生まれも育ちも南風原町で住みよい街だと思っている。以前は、地域ぐるみで横のつながりもあり、子育てもしやすく、子供会も活発であった。自治会と一緒に活動している中で、アンケート調査の結果も以前とは変わってきおり、親が子供会の世話役をできなかったり、ＰＴＡ活動が衰退していったり、地域住民とのつながりも希薄になっていることを感じる。移住者が自治会に加入し、地域活動に参加しやすい環境づくりが必要であり、移住者との意見交換をしながら巻き込んで地域づくりをしなければならない。地域行事も人手が必要であり、人員確保に苦慮しながら、なんとか実施できている状態である。高齢者が安心して暮らせるまちづくりのためにも元々の住民を中心に自治会の活性化、移住者を含む横のつながりを強化していかないといけない。

委　員：自治会への加入率が落ちており、老人会、青年会、婦人会、民生委員も減ってきている。以前は自治会の加入は当然のことと認識していたが、身近にも自治会への未加入や脱退者がいることを聞き、大変驚いている。アンケート調査の結果からも、若い世代は日々が忙しく、地域活動に参加できないことや自治会に加入することへのメリットを感じていないのかと思った。以前に高齢者の孤独死に直面したことがある。これからさらに高

齢化が進む中で孤独死も増えていくのかと感じている。町も高齢者の一人暮らしが増えており、孤独死等を防ぐにはどうしたらよいのか。また、ヤングケアラーの問題もあり、病気の親を看病するため、学校に遅れたり、休んだりとまともに義務教育を受けられないということ聞いている。家庭環境によって不登校の子もおり、個人の意思ではないところで障害があったり、対応する学校も大変だと思う。こういった人は支援を必要としており、支援があることを誰もが分かる方法を検討しなくてはならない。町として誰ひとり取り残さないというところで、どうすれば手を差し伸べられるか、困っている人たちの声を拾って、地域の実態を把握する必要がある。

委　員：地域の人口構成が若い世代が 50%、高齢者が 50%となっていることから、地域の活動の活性化を考えると、若い人が興味を持ってもらえるようなスポーツやイベント、子どもや家族が参加しやすい行事が必要かと思う。地域の伝統芸能などもこれまでどおり継続しながら、若い世代の親御さんも参加できるような活動ができればよいと思う。

委　員：保育所を経営しているが、子育てや仕事で時間的にも余裕がない保護者をどうやって自治会とつなげていけるか考えている。保護者には町外出身者も多く、ほとんどがアパート暮らしで近くに親がいない方も多く、コロナの影響もあって横のつながりが希薄になっている。保育園の機能をうまく使って、行事などを絡めながら保護者と自治会をつなげていけないかと思っている。子どもを介して、園と保護者と自治会の連携、つながりができればと考えている。

委　員：宮平では、宮平保育所、やまびこ保育園が公民館でお遊戯会をしている。しかし、自治会と保護者との接点がなかったので、これからの行事では自治会と保護者をつなげるような声かけをしていきたい。

委　員：これまでの行事では、出し物、余興などは地域のいつものメンバーにお願いするばかりであったが、今後はダンススクールや保育所などにお願いしたり、子どもを介して親御さんも参加してもらえるようにしたい。特に地域の活性化には女性の力が必要なので、お母さんたちを巻き込んでいければいいと思う。

委　員：自治会に加入していない世帯、特にアパートなどに加入のお願いや広報誌などで周知しているが、あまり反応がない。広報誌に目をとおしてもらえてないことも考えられる。また、ひとりの加入者が自治会を脱会すると知り合いの加入者も脱会していくなど連鎖反応もある。地域の防犯灯は自治会費で賄っていることなど自治会の役割、意義などを保護者に伝えて理解してもらう必要がある。

委　員：広報誌や通知文書だけではあまり効果はなく、個別訪問し、対面で説明することによって加入してくれる場合もある。加入促進や行事参加も子どもに関連する行事を多く開催し、親御さんやその家族を巻き込んでいけたらいいと思う。

委員長：敬老会なども老人クラブだけでやるのではなく、学童クラブも一緒にやるなど地域交流できるように工夫すればよい。子どもたちは放課後の習い事などで、なかなか地域との接点がないように感じるので、夏休みに公民館を居場所として開放し、学習指導を高齢者にお願いするなど、できることはあると思う。

委　員：学習支援は高齢者がやっています。

委員長：女性会でも何かしらやるべきだと思います。

委　員：女性会では、これは子どもたちから投げかけるものだと思っています。実際に個別で対応している方もいらっしゃいます。それがきっかけとなって行事にも参加してもらったり、手伝ってもらったりと横に広がっていけばと思っています。

委員長：情報発信は、広報誌などの紙以外に何かあるか。

事務局：最近はユーチューブなどを活用して情報発信している自治会もある。子どもたちはＩＴ系には興味がある子も多く、情報発信に協力してもらいながら、つながりもつくれるのではないか。

委員長：社協では災害・防災などの取組に関心があるようですが、何かリンクできるものはないですか。

事務局：社協でも今出たアイデア、情報発信や取組を活用できればと思う。アンケート調査の結果からも年代によってニーズが違うとわかった。災害についてもいろいろと考えていきたいが、社協だけでなく、行政も一緒になってやっていきたい。２年前、老人運動会の中で防災を意識したプログラムがあった。イベントや遊びの中から防災・防犯の取組につないでいければ、子どもたちも楽しめるのではないか。

委員長：重層的体制整備事業というのは、これまで縦割りであったものを横のつながりでやること、そして行政だけでなく地域住民でやっていくということである。行政的には沖縄市とうるま市が重層的事業に移行するとして動き出した。重層的支援には、１つ目として、いろいろな相談ごとについて自治会で見つける仕組みが必要で、町では仕組みができておりさらに充実する。２つ目は、参加支援で手が差し伸べられない人に福祉の手を差し

伸べる仕組み。３つ目は、多くの問題を抱える家庭に、多職種連携で解決しようという仕組み。高齢者の相談で話をきいてみると、経済的な話、孫の話などいろいろと出てくる。それをワンストップで対応することができる。このような仕組みも今回、議論したいと思っている。他府県では自治会加入率が 70%前後あり、横浜市は人口 300 万人で加入率が 75%と非常に高い。沖縄県は自治会加入率が低く、そういう中で支援体制をしていく必要がある。重層的支援のモデルが大阪府の豊中市で沖縄市と姉妹都市を結んでいる。豊中市は自治会加入率が 39%で寄り集まりが多い地域である。ボランティアも一本釣りで、少ない人数の中で困っている人に対応している。加入率が低いからダメではなく、低いなりに工夫できればいいと思う。100 歳で元気な高齢者の条件が、１つ目が食事、２つ目が運動、３つ目が社会活動と言われている。

委　員：コロナの影響もあり、行事も開催できずにいたが、少しずつ地域行事も戻ってきている。アンケート調査では町は住みよい街との意見があったのも、いいと思う。今回から自治会の役員も始めており、広報誌を持って地域を巡回してみたが、いい反応もあった。行政の立場ではあるが、一自治会の役員として、本日の会議は勉強になりました。

委員長：アンケートへの質問、その他感想などももらいました。進行を事務局に返します。

２．その他（スケジュール等）

３．閉会